

令和3年度の学校評価
ア 自己評価結果等

本年度の 重点目標	<p>1 学習指導方法の工夫改善に努め、生徒の学力の伸長を図るとともに、望ましい勤労観、職業観を育成させ、進路目標の実現に努める。</p> <p>2 生徒の規範意識を高め、命と人権を重んじる道徳心と、他人を思いやる真心を涵養し、健全な体の成長を促す。</p> <p>3 協働の精神をもって職務に当たることにより、教育活動を充実させるとともに、多忙化解消に努める。</p> <p>4 感染症予防対策に万全を期す。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<p>1 保護者との情報共有</p> <p>2 有意義な学校行事</p>	<p>1 メールやホームページを活用し、保護者との情報共有を図る</p> <p>2 活発で円滑な学校行事を運営する。</p>	<p>1 新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、メール配信やホームページの重要度が高まった。すべての保護者や生徒が迅速に情報を共有できるようにメールの登録をすすめていったが、全員の登録は難しい。</p> <p>2 今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校行事の内容変更・縮小などを余儀なくされたが、感染状況に応じて対処することができた。</p>
教務部	主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業及び評価の検討を継続し、評価について試行する。	<p>1 探究的な学習活動推進教員を募り、実践事例の蓄積を継続する。</p> <p>2 評価指標案をもとに、主体的な学習に取り組む態度について評価を試行する。</p> <p>3 実践をもとにルーブリック案を改訂するとともに、観点別評価から評定付けについて検討する。</p>	<p>1 今年度も探究的な学習活動の実践事例を蓄積するために進めている。年度末の集約に向けて進めている。</p> <p>2 各教科において観点別評価について何をもとにどのように評価するかを検討した。試行までは至らなかったが、年間指導計画作成まで行う予定である。</p> <p>3 観点別評価から評定をどのように導き出すかについて、成績処理の方法も合わせて概ね合意を得ることができた。</p>
生徒指導部	<p>1 指導の定着</p> <p>2 生徒の安全確保</p> <p>3 いじめ未然防止に係る取組の充実、いじめの早期発見、適切な事案対処</p>	<p>1 遅刻防止指導、身だしなみ指導などについて、全教員による指導の定着を目指す。</p> <p>2 毎朝の昇降口、雨天時校門での立ち番指導を継続する。</p> <p>3 防犯に対する意識を高めるとともに通学路の危険箇所についての周知を図り、立ち番指導についてはPTAとも協力して行う。また、事故多発時には即座に現場指導を行う。</p> <p>4 校門では自転車の傘さし運転防止指導を行う。</p> <p>5 講話などを通して、生徒に、自分自身が集団で果たすべき義務、責任を理解させる。明確な善悪の価値基準の下、毅然とした態度で日々の指導を行う。</p> <p>6 日常の生徒観察、健康調査、いじめ、生活アンケート等で情報収集を行い、事案対処に係る各組織の役割を具体化する。また、生徒、保護者にそれを周知する。</p>	<p>1 「指導対応表」に基づき、諸指導を展開することができた。また、状況に応じて、分掌会、学年主任者会等で、各指導規定を柔軟に調整することができた。</p> <p>2 毎朝の昇降口立ち番指導で、制服の正しい着こなしや生徒観察を継続することができた。</p> <p>3 今後も継続して、交通ルールやマナーなどの規範意識を高めることが大切である。さらに、講話等を利用して啓発に努める必要がある。</p> <p>4 職員、PTAの協力で通学路危険箇所での立ち番、自転車の傘さし運転防止指導を行い、生徒の交通安全を意識させることができた。</p> <p>5 学年主任者会、分掌会、教育相談委員会等で得た生徒情報などを集約し、各学年と連携しながら、生徒の抱える諸問題、生徒間トラブル、いじめに発展しかねない事案を早期に対応することができた。</p> <p>6 アンケート後の対処の在り方については、今後も継続して検証を進める必要がある。</p>
進路指導部	<p>1 望ましい勤労観、職業観の育成</p> <p>2 将来を見据えた基礎力の育成</p>	<p>1 進路目標を具体化させる。</p> <p>2 キャリア教育を充実させる。</p> <p>3 進路学習会・補習を充実させる。</p> <p>4 模擬試験や検定の結果を有効活用する。</p>	<p>1 各学年で分野別ガイダンスを実施したり、面談を繰り返したりなどして、希望進路の明確化・具体化に努めた。</p> <p>2 当地の新型コロナウイルス感染症の感染状況から、当初予定していた看護体験がオンラインになるなど、就業体験については十分に行えなかった。</p> <p>3 各教科の協力の下、可能な限り開講することができた。受講希望人数が多く、特定の教科・科目には大きな負荷がかかった。また、校舎の改修工事等で、実施に支障をきたすこともあった。</p> <p>4 新型コロナウイルス感染症の拡大で会場が用意されなかったため、3年生は、校外で模擬試験を実施することがほとんどできなかった。やむなく校内実施、または自宅受験での実施としたが、試験を受ける環境を十分には整えられなかったことが、成績資料からうかがえる。加えて、教員に勤務を要さない日の出勤を依頼することになり、働き方改革との兼ね合いで改善の余地もある。</p>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健部	心身共に健康で明るく日常生活を営むための基本的な資質・能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1 安心・安全な学校生活を送れる環境を整備する。 2 臨床心理士を活用し、教育相談委員会の開催を増やすとともに、内容を充実させる。 3 災害発生時における学校対応を周知させる。 4 清掃用具の整備と美化委員の活動を活性化させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス影響が続く中で、手洗い・消毒・換気および情報の発信に努めた。 2 昨年度と同様に臨床心理士の面談を希望する生徒・保護者が多かった。臨床心理士の協力により、時間以上の対応をすることができた。 教育相談委員会を積極的に開催し情報の共有に努めた。 3 感染対策を徹底した中で、年度初めに防災訓練を実施できた。 4 新型コロナウイルス対策に有効な拭き掃除を強化した。 また、物品を整備し不測の事態に備えることができた。
特別活動部	生徒の主体的・自主的活動を支援する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒会が主体となり、生徒議会を通して、生徒が各行事に主体的に取り組めるように促す。 2 特別活動部が、部長連絡会を通して各部活動を統括し、各部の主体的な活動を促す。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染症の影響で今年度も文化祭が準備の途中で中止となり、準備期間中に主体的に動いている様子であったため残念であった。来年度は全員が本校の文化祭を知らない生徒になるので、準備から主体的に行動できるように指導していく。 2 放送部・写真部を来年度合同にした。部員数、部活動内容を見ながら部活動を活発にさせるようにしたい。部連絡会を通して主体的な活動を促すことができた。
図書部	<ol style="list-style-type: none"> 1 読書への関心と図書室利用の向上 2 委員会活動の活性化 3 ICT教育の向上 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新入生への図書指導に加え、読書への関心を高める。 2 図書当番、お薦め本の執筆、読書会の実施、ポップ作り、蔵書の整理などを行う。 3 視聴覚機器を整備し、視聴覚教室利用の活性化を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新入生への図書指導はまとめて4クラスずつ行った。映像を用いたことで、分かりやすく示すことができた。 「図書館便り」は計画通り発行できたが、次年度は内容を精選してより読み応えのあるものにしていきたい。 2 図書委員は配架や廃棄など図書館業務によく従事してくれた。 3 現状維持で手一杯だった。次年度以降は、タブレットパソコンなどの最新機器への対応も含めて、より活用しやすい工夫していきたい。
1年	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣の確立 2 基礎学力の定着、学習環境の整備 3 自主性、自律性を育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 心と身体の健康に留意し、規則正しい生活を心がけさせる。 2 充実した授業を展開し、家庭学習の習慣を確立させる。また、学習環境の整備を意識させる。 3 自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 心のケアを必要とする生徒が多く感じられる中、生徒に関する情報共有を綿密に行い、保護者とも連携しながら対応することができた。また、コロナ禍において手洗いや黙食など、自己管理の意識を高めることもできた。 2 学習習慣の確立、学習意欲の向上に励んだが、意識の差を大きく感じた。次年度に向けて、創意工夫を凝らしながら改善に努めていきたい。 3 グループワーク・調べ学習・発表・ディベートなどを実施し、非認知能力の向上を図ることができた。
2年	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣を維持させる。 2 行事等、集団生活を通して共同性を養う。 3 向学心を育む。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校生活を大事にするように指導する。 2 学校行事や部活動などを通して、集団として行動するように促す。 3 目標を設定させ、補習や家庭学習に取り組むように促す。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年度より欠席する生徒は増加したが、担任の先生を中心に個別対応をしながら指導できた。 2 新型コロナウイルスの感染拡大により、修学旅行や学年レク等、計画の変更を余儀なくされたが、臨機応変に対応し、生徒が主体的に活動する機会を設けることができた。 3 模擬試験前に事前学習に取り組みせ意識を高めさせた。また、総合的な探究の時間で視野を広げさせることに努めた。今後も進路意識を高める指導を継続していきたい。
3年	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣を維持させる。 2 より高い進路目標の設定と学力伸長を援助する。 3 自啓自発の実践 	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業、平常補習、学習会などを活用し、学習中心の生活習慣を身に付けさせる。 2 模擬試験を活用し、面談を繰り返しながら進路目標を設定させる。 3 総合的な探究の時間を活用し、自己の進路実現に応じた探究講座を選択させ、実践させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 平常補習への参加率は高く、冬季学習会でも熱心に学習する姿が確認できた。また、業後に進路閲覧室を活用し学習している姿も見られ、学年として、生徒に学習中心の生活習慣を身に付けさせることができた。 2 模擬試験が新型コロナウイルスの感染拡大の影響で校内実施に予定変更されたことは残念であったが、担任の先生が丁寧に面談を繰り返し、生徒の進路目標を適切に設定させることができた。また、今年度は進路検討会を模擬試験ごとに行い、検討会で出てきた情報を生徒に還元することができた。 3 総合的な探究の時間では各自が18の講座から3つの講座を選択し、進路実現に向けた実践ができた。
総合評価		<p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行で、実施できなかつたり、大きく変更したりする学校行事があった。その中で、昨年度との違いは、実施できなかった行事に代わる取組に対して、生徒が主体的に取り組んだ点である。そのような中、新学習指導要領移行に伴う新教育課程の作成、観点別評価の年間指導計画作成、高校入試の方法の検討、人権に関わる校則の見直し等大きく変化する教育体制に則して、学校運営体制を整備し、各分掌の取組を進めていった。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響のため、コミュニケーションに自信をなくす生徒の増加がみられ、スクールカウンセラーや保護者と連携し、教育相談委員会で状況や対応を共有した。</p> <p>昨年度の体育館の改修工事に続き、北館・本館トイレの改修工事のため、物品の移動や教室移動を、生徒の安全を確保しつつ進めていった。一方、教職員の働き方改革としては、タブレットを活用した会議の開催や電話の自動応答の導入、次年度に向けて定時退校日の増加に努めた。</p>	

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施する主な項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業と評価手法の作成 2 望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実 3 いじめ防止基本方針に基づく取組の実施 4 いじめへの対応など命と人権を重んじた生徒指導の推進 5 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況の把握
<p>自己評価結果について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 実践を基にルーブリック案を改訂するとともに、観点別評価から評定付けについて検討した。 2 保護者アンケートで、落ち着いた中でわかりやすい授業が行われていると回答した保護者が90%以上であった。 3 グループワーク・調べ学習。発表・ディベートなどを実施し、非認知能力の向上を図った。 4 生徒及び保護者に対し、分野別ガイダンスを実施したり、面談を繰り返すなどして、進路指導の明確化・具体化に努めた。 5 欠席しがちな生徒は増加したが、担任教諭を中心に個別に対応した。 6 「ハザードマップ」や「通学路注意マップ」を作成し、生徒の安全確保に努めた。 7 専門機関との連携の強化に努めた。また、全職員での情報共有にも努め、教育相談の充実を図ることができた。
<p>今後の改善方策について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ルーブリックが完成することにより、生徒の学習習慣（予習・復習・課題）を促すような指導がなされると思われる。 2 SWAT分析やクロスSWAT分析などの指導をとおして、生徒が自己を知ることにより進路実現の糸口とすることができる。 3 生徒と教師が対等な立場で積極的に語り合い、その過程の中で互いに真の学びを確認することが重要である。 4 校内の連携強化により、いじめへの対応などが速やかにできる体制の確立に努め、ホームページにいじめ指導方針を公開した。 5 職員同士の積極的な声かけを図り、一部の職員に過度な負担がかからないような職場の雰囲気づくりに努め、長時間労働による健康障害を防止する。
<p>その他（学校関係者評価委員会から出された主な意見、要望）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 夢に向かって人生をデザインすることが重要である。自分自身をイメージして、学生生活で取り組むTo doと達成するCan doを言語化してロードマップを作成するとよい。 2 塾と連携して、学校の教室を使用して放課後に塾の指導が受けられると、学校の特色となりまた、働き方改革にもつながるのではないかと。 3 新型コロナウイルス感染症に伴う対応等、保護者にメールで配信されるとよい。 4 保護者や卒業生、生徒からボランティアを募集し、何もかも教員だけでやるのではなく、共働きの精神で進めてはどうか。
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<p>構成 学校評議員 新谷 裕（名古屋学芸大学健康栄養研究所：研究員） 武田 光史（日進市立日進西中学校：校長） 浅井 宏文（日進市：浅田区長）、山本 里香（PTA：役員） 校長、教頭、事務長</p> <p>評価時期 令和3年2月21日(月)</p>